

野田中学校では、毎週金曜日に「学年通信（学年だより）」が発行されている。1年生も2年生も3年生もである。毎週欠かさずである。作成者は学年主任の先生である。紙媒体で生徒に配布している。ホームページにはアップはしていない。

昨年度の4月から各学年の学年通信を毎週見ているが、感服するばかりである。もし、私が学年主任だったとして、同じようにできるかと言ったら自信がない。たぶん、毎週出すことに苦痛を感じ、仕方なくやるだろうと思う。

小学校の校長のときも、高等学校の校長のときも、学校だよりを出していた。児童や生徒の様子がわかるような紙面にするために、行事の写真や児童・生徒が書いた文章などを載せていた。月行事予定も入れていた。

定期的に出してはいたが、楽しくはなかった。それでも、毎号の紙面構成を考えると、記事を集めるために、学校全体のことに目を向けるようになる。写真もまめに撮るようになる。児童・生徒が発表した原稿を借りて、すぐにコピーをとるようになる。それはいい点だったかもしれない。

昨年の4月に野田中学校に赴任し、また学校だよりを出すのだろうと想着ていた。第1号の準備にとりかかろうと思ったのだが、やめた。各学年ともに、学年通信（学年だより）第1号が起案されてきた。これでは自分がつくる学校だよりの出番はないと判断した。

生徒の活動の様子が写真付きでよくわかる。表彰された生徒も紹介されている。発表生徒の原稿もある。週の予定もある。各学年の生徒は、この週の予定を見て動いている。生徒にとっても家庭にとっても、この学年通信（学年だより）は学校生活に欠かせないものとなっている。

なぜ、私が学校だよりや学年通信（学年だより）の作成に消極的なのか。写真を張り付けるスキルはあるが、レイアウトのセンスがない。枠で囲むのだが、どうも見栄えがよくない。やはりセンスがない。内容はともかく、出来上がった紙面に自信がないのである。

野田中学校の学年通信はというと、見ようという気になる。読みたくなる。レイアウトがすばらしく見栄えがよい。よく工夫されている。これが毎週なのである。一定のレベルが保たれている。私がつくると、きっとレベルが落ちる週が出てくる。見やすい紙面の中には、学年主任からの時機を得たメッセージも入っている。その内容は端的でわかりやすい。

生徒は、金曜日に配布される学年通信（学年だより）を楽しみにしているに違いない。自分が登場することがあれば、友人が出てくることもある。お家の方もうれしいことだろう。学年主任の先生方には頭の下がる思いである。

私はというと、同じ金曜日に「校長通信」を出している。紙媒体で配布し、ホームページにもアップしている。それは、学年通信（学年だより）とは対極にある存在である。文字だけ、文章のみの教育的随想、エッセイ、生徒へのメッセージである。

学年通信（学年だより）とは、その役割が違う。それぞれに価値がある。生徒にとっては、学年通信（学年だより）のついでに読むくらいの存在なのかもしれない。それでよい。学年通信（学年だより）の上をいこうと思ったら、なかなか大変である。どの学年も充実した紙面である。